

# 北浦、福島から甲子園目指す

福島県の私立会津北嶺高等学校から夏の全国高等学校野球選手権大会出場を目指す石垣島出身の球児がいる。2年生ながら内野手でレギュラーを張る北浦空来(そら)(16)は、巧みなバットコントロールと守備でのハンドリング技術を武器に、8日開幕の福島大会で頂点を狙う。

175センチ、65キロ、右投げ右打ちの北浦。出身校は石垣市立真喜良小―石垣中。中学の現役引退後、高校進学までは硬式球に慣れたため、八重山育成会で心技体を鍛えた。沖縄県内進学の選択肢もあったが、「厳しい環境で野球をして自分を成長させたい」と東北の地を選んだ。

同校野球部は2018年4月にわずか6人でスタートし、1として創部6年目。昨秋の会津支部大会で優勝

## 石垣島出身・会津北嶺高2年内野手



し、今春の県大会では8強と急成長中のチームだ。1年の夏から試合に出場する北浦。アベレージヒッターとして2番や5番を任されるまでに成長した。持ち味の「バットコントロール」は、約18日先の的を狙う打撃練習で磨いた。驚くのはその的の大きさ。りんご程のネットの隙間を狙ってボールを打ち込む。

平日の練習時間は2時間。雪国のため、11月3月ごろまでグラウンドに雪が積もり、年間を通し練習量も限られる。北浦は「量よりも質」を心掛け、指導者のアドバイスを自身で考察した練習メニューで基礎を強化した。「実はバッティングより

も守備が好きなんです」と北浦。中学校の現役引退までは主に一塁を守っていたが、八重山育成会で遊撃を経験し「守備観」が広がった。高校では自主練でゴロ捕球など基礎練習に時間を費やし、内野手で大切な一歩目の踏み出しや捕球時の球際の強さなど、成果が随所に現れている。

福島県内は甲子園常連校の王者・聖光学院の座を奪おうと学法石川、日大東北などがシード校。会津北嶺は、10日の初戦で葵高校と対戦する。

北浦は「技術が上の相手でも気持ちで負けないことが大事。北嶺は歴史が浅い学校。歴史をこの夏でどう塗り替えられるか、強い気持ちで挑みたい」と力を込めた。

2年生で唯一レギュラー入りをした北浦空来。打撃と守備でチームに貢献を誓う(提供)

### 巧みな打撃と守備が武器